

# 熊本大学イニシアティブ 2030

## Kumamoto University Initiative 2030

## 地域と世界に開かれ、 共創を通じて社会に貢献する 教育研究拠点大学

### Vision

2030年に向けて



九州の中核的総合大学として  
国・地域・分野  
様々な枠組みを飛び越え  
SDGsの達成を目指す



連携強化



熊本大学  
部局・分野



他大学等

ステークホルダーとの共創

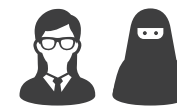


熊本大学  
企業等と共創



ステークホルダーとの対話

ダイバーシティ  
One Team  
大学改革を推進



ダイバーシティ



One Teamによる  
大学改革

# 地域と世界に開かれ、 共創を通じて社会に貢献する教育研究拠点大学

# Vision

令和元年(2019年)末から始まった新型コロナウイルス感染症の感染拡大により社会情勢が著しく変容していく中、地球規模でデジタルイノベーションが急速に進むとともに、ニューノーマル時代が到来している。デジタル・トランスフォーメーション(DX)による社会の変化がもたらす課題や、カーボンニュートラルへの挑戦、食糧、資源、覇権等を巡る地域紛争、エネルギー、環境、気候変動問題など、人類は直面する多くの複雑で困難な課題を解決しなければならない。また、国内に目を向ければ、令和14年(2032年)には18歳人口が100万人を割ると予測される超少子化の時代を迎える。

このように大学を取り巻く環境が急激に変化する中、熊本大学は九州地域の中核大学として、これまでの災害を克服してきた経験を活かしながら、2030年までの国連の掲げる持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向けて全力を尽くす。その上で、地域社会から地球規模に至る課題に常に向き合い解決に導くことができる人材の育成並びに研究の推進及び社会との共創による諸課題の解決に挑むことを宣誓する。

第4期中期目標期間[令和4(2022)~9(2027)年度]は国立大学の存在意義や真価が問われる時であり、熊本

大学は、従来の大学経営や教育研究政策を社会のニーズ・現状に即して更に改革し、若手人材等の積極的な登用によるダイバーシティの推進及びSDGsの達成に向けた取組の加速化を柱として、学長の強力なガバナンスのもと、全教職員が組織・部局の垣根を越えて、One Teamとして大学改革を進める。「常に情報を発信し続ける大学」、「常に外から見える大学」、「常に外からの声に耳を傾け、発展し続ける大学」を大学経営や教育・研究の基本姿勢に掲げ、大学を地域と世界に開放し、様々なステークホルダーと連携・協働することにより、教育、研究、社会との共創の諸活動を活性化し、地域・社会・世界に貢献する。

教育面では、日本人学生及び留学生に対する言語教育を必須の基盤として、その背景となる政治・文化・歴史等、国際社会で通用する人材育成のための教育を実施する。さらに、DX時代の国際社会で求められるリテラシーを身に付け、国内外で多岐にわたり、活躍できる真のグローバル人材を育成する。

研究面では、生命科学、自然科学並びに人文社会科学分野に設置した国際先端研究組織を我が国におけるオンリーワンの研究拠点に発展させ、世界トップレベル

の研究を展開するとともに国内外から卓越した研究者が数多く集うような環境を整える。これらにより、人材の多様化・好循環を促進し、全学を挙げて研究力の向上に取り組む。

社会との共創の面では、オープンイノベーションセンターを学内に設置して産業界との連携を強化し、デジタル社会の基盤を支える半導体分野を中心に教育研究を活性化させるとともに、国、地方自治体、地元企業と共創し、地域産業の強靱化につながる取組を実施する。また、部局・分野毎に最も適切な枠組みで大学間、産学官金連携を強化し、様々なステークホルダーとの対話を通して、地域における社会変革や社会課題解決を図り、地域の活性化や地方創生を牽引する。

医療面では、災害医療人材を含む高度先端医療人材養成を推進するとともに、DXを活用したスマートホスピタルを実現する。

熊本大学は、予測困難な2030年を見据えて、「教育」、「研究」、「社会との共創・医療」の3つの戦略に基づく取組を実行することにより、「地域と世界に開かれ、共創を通じて社会に貢献する教育研究拠点大学」を目指す。



常に情報を発信し続ける大学

常に外から見える大学

常に外からの声に耳を傾け、発展し続ける大学

平成28年 熊本地震  
令和2年 熊本豪雨  
新型コロナウイルス感染症

・九州の中央に位置する地理的メリットを活かし、トップレベルの教育・研究・社会貢献活動を展開  
・熊本から日本を飛び越え、DX時代にグローバルに活躍する人材を育成

### ビジョンの実現に向けた戦略



#### 戦略01 教育

DX時代の国際社会に対応できるリテラシーを身に付け、高度な英語力と異文化理解の力によりSDGsの達成に貢献できるグローバル人材を育成する。また、イノベーションを通して、社会の要請に柔軟に対応できる博士人材を育成する。



#### 戦略02 研究

国際先端研究組織をオンリーワンの研究拠点に発展させ、先端研究に磨きをかけ、世界トップレベルの研究を展開するとともに、本学で継承・発展してきた研究への支援体制の強化や潜在的な可能性がある研究分野の発掘と育成に取り組む。



#### 戦略03 社会との共創・医療

大学を地域と世界に開放し、地域や社会並びに世界の様々なステークホルダー、教育・研究機関等と協働すること、すなわち共創による、オープンイノベーションを通して、地域の活性化や地方創生を推進する。

臨床教育拠点として、災害医療人材を含む高度先端医療人材養成を推進するとともに、熊本県・医師会と連携した“くまもとメディカルネットワーク”推進により地域医療に貢献し、DXを活用したスマートホスピタルを実現する。

### ガバナンス

#### ダイバーシティ推進・若手人材の積極採用

(令和3年7月「人事基本方針」策定)

- ▶ 幅広いステークホルダーとの対話の徹底
- ▶ 次世代の法人経営人材の育成
- ▶ 学長によるトップセールス、産業界との共同研究の間接経費比率30%以上達成等による財務基盤強化
- ▶ デジタル・キャンパスの実現(「総合情報環構想」)

#### SDGs達成に向けた取組の加速化

(令和3年8月「熊本大学SDGs宣言」)

全学で共有する価値観を明確化し、One Teamとして大学改革を推進する体制を構築



### グローバル人材の育成

ジョイント・ディグリー、ダブル・ディグリー・プログラム等の提供を促進し、日本人学生及び留学生に言語教育のみならず、その背景となる政治・文化・歴史など、国際社会で通用する人材育成のための教育を実施、熊本から日本を飛び越え、グローバルに活躍する意欲をもった人材を育成

### DX人材の育成

DX時代の国際社会で求められるリテラシーを身に付け、多様性に富んだ国際社会における諸問題に対して解決策を創出し、その実践を主導するための行動力を兼ね備えた世界に通用する人材を育成



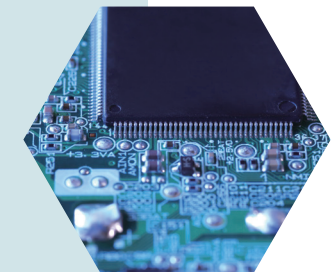
### イノベーション人材の育成

地域の中核総合大学として、熊本・九州の産業界を含め継続的に高度人材を供給  
博士課程に進学する優秀な修士学生を確保、博士人材としてのキャリアパスを多様化、社会のニーズの継続的把握、時代の要請に応じたカリキュラム編成を推進

### 半導体・デジタル研究教育機構の設置

(仮称)

文系・理系を問わず数理・データサイエンス及びAI分野の素養は不可欠であることから、これらの教育研究を展開し、かつデジタル社会の基盤を支える半導体分野における教育研究の中核となる「半導体・デジタル研究教育機構(仮称)」を設置し、DX時代を牽引する人材育成の中心に据える。





**DX時代の国際社会に対応できるリテラシーを身に付け、  
高度な英語力と異文化理解の力によりSDGsの達成に貢献できるグローバル人材を育成する。  
また、イノベーションを通して、社会の要請に柔軟に対応できる博士人材を育成する。**

異なる文化・価値観を持った外国人留学生と日本人学生が高度な英語力と異文化理解の力を基盤として共生するキャンパスのグローバル化をなお一層推進するとともに、新たな授業形態を高度に活用した学修環境の構築を通して、デジタル・トランスフォーメーション(DX)時代の国際社会で求められるリテラシーを身に付け、多様性に富んだ国際社会における課題に対して解決策を創出し、その実践を主導するための行動力を兼ね備えた世界に通用する人材を育成する。

文系・理系を問わず数理・データサイエンス及びAI分野の素養は不可欠であることから、これらの教育研究を展開し、かつデジタル社会の基盤を支える半導体分野における教育研究の中核となる「半導体・デジタル研究教育機構(仮称)」を設置し、DX時代を牽引する人材育成の中心に据える。さらに、大学の枠を超え、熊本県・市、産業界、金融機関等の様々な関係機関が一体となった恒常的な議論の場として「地域連携プラットフォーム」を構築することで、熊本大学が中心となっ

て地域のDX課題・ニーズを分析・研究・解決するとともに、多分野が融合する「学部等連係課程」を活用して新たな学位プログラムを展開し、グローバル社会を担う、広い視野を持った人材を育成する。併せて、既存の学部編入学制度等を活用し、地域の高等専門学校を始めとする各教育機関等との連携を強化することにより、特に半導体分野における人材育成を加速させる。

また、地球規模の問題解決と持続可能な開発目標(SDGs)の達成に貢献するため、多様性に富んだ国際社会における様々な課題に対して定見を持って解決策を創出できる高度な知的基盤に基づく行動力を兼ね備えた世界に通用する人材を育成する。その際、ハイブリッド留学システムやジョイント・ディグリー(JD)、ダブル・ディグリー(DD)・プログラム等、国際連携教育プログラムの提供を促進することで、日本人学生の海外派遣及び優秀な留学生の受け入れを拡大し、グローバルマインドセットを備え、熊本から日本を飛び越え、グローバルに活躍する意欲を持った人材として育成する。

さらに、科学技術イノベーション創出に向けた高度な専門性を有した博士人材の育成は、我が国が継続的に発展する上では不可欠であり、地域の中核総合大学として、熊本・九州の産業界を含め継続的に高度人材を供給する。そのためにも、博士課程に進学する優秀な修士課程学生を確保し、博士人材としてのキャリアパスの多様化を進めるため、社会のニーズの継続的把握と時代の要請に応じたカリキュラム編成を推進する。

## 世界トップレベル研究拠点に発展

国際先端医学研究機構

生命系

国際先端科学技術研究機構

自然系

■幹細胞学、がん生物学  
■先進材料科学、生物環境科学、防災・減災分野等の推進  
医理工連携等の異分野融合研究を強化し、  
新たな研究分野を発掘

### 生命科学

全国共同利用・共同研究拠点として日本の研究を牽引

発生医学研究所

発生医学・幹細胞学の推進

老化・健康長寿研究

データ駆動型解析研究による  
新たな治療法開発の加速化

感染症基礎・応用研究

### 自然科学

先進軽金属材料国際研究機構

※富山大学と連携

日本における軽金属  
材料研究を主導

### 人文社会科学

◎永青文庫研究

国際人文社会  
科学研究センター

○新資料学・歴史理論

○学際的研究資源アーカイブ

◎メディア芸術・現代文化研究

## カーボンニュートラルへの挑戦 我が国におけるオンリーワンの研究拠点の構築

発展研究

拠点研究

萌芽研究

生命科学部

(医学・薬学・保健学)

先端科学部

(理学・工学)

発展研究

拠点研究

萌芽研究

人文社会科学部

(文学・法学)



学長裁量ポストや外部資金等の戦略的活用

国内外から卓越した研究者雇用



**国際先端研究組織をオンリーワンの研究拠点に発展させ、先端研究に磨きをかけ、世界トップレベルの研究を展開するとともに、本学で継承・発展してきた研究への支援体制の強化や潜在的な可能性がある研究分野の発掘と育成に取り組む。**

先駆的な国際共同研究や融合研究を推進するため、生命科学、自然科学、並びに人文社会科学分野に設置した国際先端研究組織を更に発展させ、我が国におけるオンリーワンの研究拠点を構築し、世界レベルの研究を展開するとともに国内外から卓越した研究者を獲得するための人事制度を設計し、第一線の研究者が世界から数多く集うような環境を整える。また、学長裁量ポストや外部資金等を戦略的に活用することによって、国内外から卓越した研究者を雇用して新たな研究を推進し、異分野融合・新分野創成につながる連携ネットワークを構築する。これらにより、人材の多様化・好循環を促進し、全学を挙げて研究力の向上に取り組む。

生命科学分野においては、国際先端医学研究機構(IRCMS)について、発生医学研究所の新たな学問分野の創造を行うグループと発展的融合を果たして、世界トップレベル研究拠点を構築し、科学技術上の世界的な課題を解決する。また、ヒトレトロウイルス学共同研究センター及び生命科学研究部附属ワクチン開発研究セン

ターを中心として感染症に関する基礎・応用研究を推進する。さらに、医薬理工連携研究及びビッグデータを網羅的・横断的に解析するデータ駆動型解析研究を推進するとともに、老化・健康長寿研究においては、老化関連疾患の新たな治療法の開発を加速させ次世代ヘルスケアを先導する。

自然科学分野においては、本学の強みである「材料」に関する研究を先鋭化し、世界トップレベルのナノシート、二次元マテリアル研究で世界を凌駕する等、新たなイノベーションを創出する。特に、富山大学と連携する「先進軽金属材料国際研究機構」について、全国共同利用・共同研究拠点として、日本における軽金属材料の研究を主導して、日本の科学技術と産業の発展に貢献するとともに、カーボンニュートラルへの挑戦を先導する。また、熊本県における農業問題を抽出し、基礎・応用研究を行い、持続可能な地方農業の提案を行う等、単にコロナ禍の前に状況を戻すだけでなく、新しい持続可能な社会を築くためのグリーンリカバリーの取組を促進する。

さらに、半導体分野において地域産業を支える研究を展開する。国際先端科学技術研究機構(IROAST)では次代を担う若手研究人材を育成するとともに、社会からの要請に応える研究を推進する。

人文社会科学分野においては、本学の特色である「永青文庫研究」を推進するほか、人文社会科学系国際先端研究組織において、歴史理論の再構築により既存の通説的理解を打破する「新資料学・歴史理論」及び熊本に関係する事件を中心とする研究資源アーカイブの構築、並びに他者の痛みに関する批判理論を学際的に展開する「学際的研究資源アーカイブ」を重点研究領域として位置づけ、国際通用性の高い研究を展開する。さらに、マンガを中心とするメディア芸術を対象とした研究を促進し、現代文化資源に係る研究人材の育成及びアーカイブ化による地域文化資源に係る研究を柱として、日本のみならず国際的なメディア芸術・現代文化研究をリードする国際研究組織として発展させる。





### 熊本創生推進機構

DX時代の国際社会の  
基盤となる半導体分野に関して  
研究を活性化、地域産業の  
強靱化につなげる



### オープンイノベーション センターの学内設置

部局や機関を越えた共同研究を推進し、  
産業界との連携を強化  
イノベーション・コモンズを強力に推進

### 地域イノベーション・ エコシステム形成 プログラムの展開

共創的研究を実施し、新産業を継続  
的に創出するエコシステムの形成を  
加速

### ビジネスを通じた 社会的課題の解決方法を 学ぶ人材育成

社会的課題の解決方法や地域経済活性化の  
実現、地域の担い手の育成を推進

### くまもと水循環・減災研究教育センター 熊本創生推進機構

#### 平成28年熊本地震、 多発する豪雨災害からの学び

- ・「災害から早期に復旧復興できる社会の実現」を掲げ、産官学が連携してマルチハザードに適応した減災スマートシティを構築
- ・熊本県が有する豊富な地下水資源を取り巻く安全・安心な地域づくり



### 熊本大学病院



- 地域医療の最後の砦として高度・先端医療の展開・提供
- 医療の質の向上と高度先端医療人材の養成
- 長期的視野で活動可能な医療チームを構成する多職種の災害医療人材養成

### “くまもとメディカルネットワーク”の強化 DXを活用した“スマートホスピタル”の実現

熊本県、医師会、行政機関等との連携・協力

地域拠点病院へ医師を派遣





**大学を地域と世界に開放し、地域や社会並びに世界の様々なステークホルダー、教育・研究機関等と協働すること、すなわち共創による、オープンイノベーションを通して、地域の活性化や地方創生を推進する。**

企業及び地方自治体等との連携を強化し、地域の発展へ貢献する人材の育成・産業の創出に積極的に貢献する。また、イノベーション・コモンズを強力に推進するため、オープンファシリティ運営システムを取り入れたオープンイノベーションセンターを学内に設置して産業界との連携を強化し、部局や機関を越えて共創する環境を整備する。特にデジタル・トランスフォーメーション(DX)時代の国際社会の基盤となる半導体分野に関して、先端科学研究部附属半導体研究教育センターを設置し、次代を拓く若手専門人材の育成及び研究を活性化させるとともに、国、地方自治体、地元企業と協働し、地域産業の強靱化につながる取組を実施する。

地域の人口流出の解決を目的として、地場企業の若手経営者や後継者を対象として、ビジネスを通じた地域課題の解決方法を学ぶ人材育成塾を開講するとともに、域内外の企業の研究機能を学内に誘致し、企業と一体となった共創的研究を実施する等、産学

官金連携による地方創生を推進する。そのような組織的かつ中長期的な他機関との連携によって、社会的課題の解決、研究成果の社会還元を行うとともに、最先端の専門知識を持つ企業人の育成と実践力を持つ、若手専門人材の育成を目指す。また、域内外の学外資源と優れた研究シーズを活用して、地域産業の国際競争力強化や成長分野への進出を推進するとともに、地域の企業と一体となった共創的研究を実施し、新産業を継続的に創出するエコシステムの形成を加速させる。

平成28年熊本地震や近年、多発する豪雨災害の被災経験の学びから、「災害から早期に復旧復興できる社会の実現」を掲げ、産官学が連携してマルチハザードに適応した減災スマートシティを構築することを目指し、「避難の促進に対応した技術」と「被災後の人々の生命・健康を守る技術」の開発に取り組むことに加え、熊本県が有する豊富な地下水資源を取り巻く安全・安心な地域づくりに取り組む。



**臨床教育拠点として、災害医療人材を含む高度先端医療人材養成を推進するとともに、熊本県・医師会と連携した“くまもとメディカルネットワーク”推進により地域医療に貢献し、DXを活用したスマートホスピタルを実現する。**

地域医療を含めた熊本県内全体の医療レベルの向上と効率化、働き方改革の推進、地域医療人の養成とビッグデータを活用した研究の推進、AIによる画像サポートシステムを発展させる等、DXを活用したスマートホスピタルを実現し、医療の質の向上と高度先端医療人材の養成を図り、地域医療へ大きく貢献する。さらに、熊本県・医師会及び行政機関等との連携・協力により、“くまもとメディカルネットワーク”を推進するとともに、災害時において、超急性期～急性期の支援並びに慢性疾患等を対象とした長期的視野で活動可能な医療チームを構成する多職種の災害医療人材養成を更に加速させる。